



仙台・宮城元気ニュース

～仙台地域の元気な情報を掲載！～

Vol. 12

平成24年2月1日

【発行】

宮城県仙台地方振興事務所

亶理町の鈴木観光いちご園

逆境に負けず、震災後初のオープン！



亶理町で観光イチゴ園を営む鈴木信之さんが、お客様にイチゴ狩りを楽しんでいただけるよう、1月21日から園をオープンしました。

同園は沿岸部の吉田地区にあった65aの畑が、地震に伴う津波により浸水被害を受けました。また、同地区が町の「災害危険区域」に指定されたため、逢隈地区（国道6号線沿い）で再開しました。一からハウスを再建しなければならないことや、なかなか条件に適した土地が見

つからないなど、大変な苦労がありました。しかし、町民から掛けられた温かな言葉や、「またイチゴ狩りに行きたい」というお客様からのメッセージに励まされ、昨年4月下旬にはホームページ上で「何年後になるかわからないけれど、必ず鈴木観光いちご園を再開します」という決意を表明しました。

「正直なところ、こんなに早く再開できるとは思っていなかった」と語る鈴木さん。苗を分けてくれた東松島市の農家や、ハウス再建に尽力してくれた事業者、身近で支えてくれた多くの人たちに感謝の念を抱いています。

「イチゴ狩りを楽しみにしていた方に、ぜひ来ていただいて、大粒の甘いイチゴを味わってほしい」そう語る鈴木さんには新たな目標があります。それは、将来的には園に隣接したカフェをオープンし、お客様に安らぎの場所を提供することです。

園の隣には、桜の名所として有名な亶理公園があります。イチゴ狩りを楽しんでから、亶理公園でうららかな春を満喫する。そんな春の過ごし方はいかがでしょうか。

【問】鈴木観光いちご園 電話：0223-29-4406

開園日：1月21日～3月末日（土日祝日のみ。3月11日は午後より休園）、4月1日～6月中旬（毎週月曜休園。月曜祝日の場合、翌日が休園日）※ 完全予約制ですので、お出かけの前にお問い合わせください。



塩釜神社 奉獻第64回乾海苔品評会が開催されました

平成24年1月11日、塩竈市の塩釜神社を会場に、奉獻第64回乾海苔(ノリ)品評会が行われました。この品評会で優勝・準優勝した乾ノリは皇室に献上されます。

昨年夏に松島湾で行われた採苗・育苗や、秋からスタートした外洋での本養殖も順調に進んでおり、高品質のノリが生産されています。



品評会には、秋から生産された、色・艶・香りともに優れているノリの中から、60点（昨年153点）が出品されました。



厳正なる審査の結果、宮城県漁協七ヶ浜支所の齋藤吉勝さんが栄えある優勝を手にしました。また、他の出品者のノリも品質が高く、仙台地域では宮戸支所、宮戸西部支所、塩竈市浦戸支所の生産者が一等、二等、技術賞をそれぞれ受賞しました。

今年度、生産されたノリは、震災復興の旗印である「復興ノリ」として、また、全国に誇れる「宮城のノリ」として、宮城県漁業協同組合を通じて提供されています。

塩竈市魚市場で平成24年初売りが行われました

平成24年1月4日、県内の魚市場の先頭を切り、塩竈市魚市場で初売りが盛大に行われました。

初売り式の後、当日入港したマグロ延縄船が水揚げした約5,000本、98トンのマグロ・カジキ類を、威勢のよい掛け声のもと約80人の仲買人が競り落としていきました。価格は、メバチマグロがキロ当たり7,000円の最高値を付け、漁獲量、単価ともに好調なスタートを切りました。

同市場は、津波により壊滅的な被害を受けた県内の市場の中で、早期復旧を果たしました。他の被災した漁港・市場の機能を補完し、これまで入港のなかった沖合底曳船等の水揚げなどにより、水揚げ金額で100億円の大台を回復しています。

今後とも水揚げの増加に努めながら、旬の新鮮な魚介類を県民の皆様にお届けしていきます。



よさこいで亘理を元気に！

～「わたり恋来い」が地元亘理町の魅力を発信～



亘理町でピアノ教室を開いている菊地淑子さんは、地元を元気にしたいという思いから、10年前によさこいグループ「わたり恋来い」を立ち上げました。地元の方を中心に20名ほどで踊り続けておりますが、メンバーの中には、津波により自宅を失った方もいます。

昨年は、「被災した地元と、踊りを見に来てくれる人々を元気付けたい」という思いと、みちのくYOSAKOIまつりの主催者から掛けられた「ぜひ参加してほしい」という言葉を受けて、同まつりへの出場を決意しました。

毎年10月に開催される同まつりに向けて、例年は3月から練習に励みますが、昨年は震災の影響で練習場所を確保するのが難しく、また、メンバーも練習に参加するのが厳しい状況であったため、本格的に練習を始められたのは9月でした。

「わたり恋来い」のオリジナル曲である「みちのくどっこい」(♪亙理の名物はらこめし、ほっきもあればしゃこもある、いちごにりんごにアセロラC、食べればみんなどっこいどっこい)の個性豊かな歌詞にあわせて元気な舞を披露し、会場を盛り上げました。



また、菊地さんは現在、荒浜で漁業を営む白井邦夫さんから譲り受けた大漁旗で仕立てた法被を身にまとい、亙理の漁業復興への願いを背に、老人介護施設等で踊りを披露しています。

菊地さんは「お年寄りの中には、ストレスにより人に会うのがおっくうになっている方もいる。よさこいを通して元気を与えるとともに、亙理の町が復興していけるように、亙理の魅力を発信していきたい」と、笑顔で抱負を話してくれました。

心が一つになる組織と良きリーダーが地域を守る！

名取市高館地区で農林業を営む庄司彰悦さんは、先代から引き継いだ約40haの雑木林を伐採して昭和34年頃からスギ人工林を造成し、枝打ちや間伐を精力的に行いながら、良質材生産を実践しています。また、長年にわたり、林業、畜産、稲作の複合経営に取り組まれてきました。

庄司さんが伐採した50年を超えるスギ丸太は、一般のスギ材よりも6～8割ほどの高値で販売されており、「庄司さんが育てたスギは買っても損はしない」と言われています。



また、庄司さんは築50年になる木造・瓦屋根の自宅が先の地震でも傷まなかったことについて、「30人で2日間かけて地盤を固めたおかげだよ。人も家も基礎が重要だ」と話しています。町内会長、PTA会長、林業研究会会長、名取市林業振興協会会長など、若い時から数多くの役職に就いてきた庄司さん。「地域には心が一つになる組織が必要であり、良いリーダーがいないと地域は発展しない」、「人材を育成し、地域の良き伝統や文化、くらしを守っていきたい！」という想いから、常々組織の規約を見直すなどして、若い世代や女性の参入を促してきました。

今後も地域のリーダーとして、震災復興に向けた地域の活動をけん引してくれることでしょう。

耕谷アグリサービスの『福興餅』が販売されています



名取市の(有)耕谷アグリサービスは、耕谷地区の担い手として、大規模な土地利用型農業を実践するとともに、耕谷産のもち米を使った製品の加工・販売に取り組んできました。みやこがねで作った餅は「耕谷もち」と呼ばれ、名取市の地域ブランドとして広く知られてきました。

しかし、津波により耕谷地区は浸水の被害を受けたため、平成23年度はもち米の作付けをすることはで

きなくなりました。このため、耕谷産のもち米を使用することはできませんでしたが、県内産のみやこがねを原料として「福興餅」の製造を始めました。

年末には白切り餅の他に、エゴマや紫芋をはじめ、黒豆、よもぎが入った豊富な種類の色餅が製造され、毎年数多くのお客様が喜ばれています。この色餅は年末のみの販売となりましたが、白切り餅は現在も販売されています。

常務取締役の佐藤克行さんは、「来年は除塩工事も進むので、20ha前後のもち米を作付け予定です。エゴマなどの材料も含め、耕谷のものを使った耕谷もちを作りたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします」と今後の目標を話してくれました。

復興への願いが込められた「福興餅」は、同社の事務所でお求めいただけるほか、同社ホームページに掲載の注文書に必要な事項を記載の上、FAXでご注文いただけます。



【問】(有)耕谷アグリサービス 電話：022-381-5338 FAX：022-381-5339

亘理地域における塩害技術対策研修会を開催しました！



1月26日に、県亘理農業改良普及センター管内の農業者を対象に、「亘理地域における塩害技術対策研修会」が開催されました。

亘理管内では津波により約7,000haの農地が海水流入による塩害の被害を受けました。昨年中に除塩作業を実施し、営農再開した農地もありますが、多くの農業者が平成24年に営農再開することを目指して、除塩作業に取り組んでいます。

農業者にとって、除塩後、最初の作付けは大変重要です。土壌条件に合った施肥や作物の生育状況のチェックにこれまで以上に注意を払う必要があります。研修会では、除塩方法だけでなく、その後の営農対策をテーマに研修を行いました。

第一部では、東北大学大学院農学研究科附属複合生態フィールド教育センターの伊藤豊彰准教授が津波被害の影響と対策について講演を行い、約50名の農業者が熱心に受講しました。

第二部の分科会では、県関係機関の担当者から「継続土壌調査結果の報告」や「施肥管理のための留意点」、「作物ごとの耐塩性」などの情報提供がありました。

参加者からは「堆積物に含まれる硫化鉄の話や、カルシウム資材の話がとてもわかりやすく、興味深かった」「除塩工事が終われば除塩完了と思っていたが、自らが行うべき営農対策がわかった」「農業者同士がもっと情報交換できるような研修会を今後も開催して欲しい」などの感想が聞かれました。

★ 読者の皆さまからのたくさんの明るい情報をお待ちしております！
お問い合わせ先) 宮城県仙台地方振興事務所地方振興部(担当:鈴木,高橋)
(HP) <http://www.pref.miyagi.jp/sdsgsin/> (E-Mail) sdsinbk2@pref.miyagi.jp
(TEL) 022-275-9140

